

なんじゃもんじゃ

第 21 号

平成 23 年 4 月 1 日

発行責任者：管理者 細江 雅彦

編集：市立恵那病院広報委員会

http://www.enahp.enat.jp/

E-mail:enahosp@enat.org

認知症について

65歳以上の10人に1人が患っているといわれるほど「ありふれた病気」、認知症についてお話しします。



総合診療部長 吉田 力

●どんな病気？

脳やからだの病気が原因で、認知機能の障害(物忘れ、日時や場所がわからない、判断力が低下する、など)が起こり、普通の日常生活が送れなくなった状態をいいます。主な原因にアルツハイマー型認知症、脳血管性認知症などがあります。

●最初にあらわれる症状は？

物忘れが始まるのが最も多いです。これまでやっていた事をしなくなった、身なりに気を使わなくなった、うつ症状、注意力の低下などが初期症状のこともあります。思い当たる症状がいくつかあてはまれば認知症の疑いがあります。

●早期発見・早期治療が重要

原因や状態によっては適切な診断と治療をすれば、「症状が改善する認知症」があります。放置すれば治療しても改善しないことが多いため、早期発見・早期治療が重要です。

●当院「物忘れ外来」のお知らせ

予約専用ダイヤル 0573120011657
予約受付時間 平日14時から17時

「基本理念」

私たちは、地域住民のために、医療倫理を守り、質の高い、信頼される、思いやりあふれる医療を展開いたします。

「基本方針」

- 一、患者様の権利を尊重し、患者様中心のチーム医療を展開いたします。
- 二、質の高い医療を提供できるように研鑽に努め地域包括医療に貢献いたします。
- 三、地域住民に安心され、よく親しまれ、信頼される病院を目指します。

認知症発見のためのチェック項目

- *今日の年月日や曜日がわからない
- *今何時頃かわからない
- *少し前のことを忘れてしまう
- *1〜2週間前に話したことを全く覚えていない
- *同じことを何度も言う
- *会うたびに同じ内容の話をする
- *使い慣れた単語が出てこなく、「あれ」「それ」などの代名詞が多い
- *話の脈絡をすぐに失う
- *質問されたことと違うことを答える
- *会話を理解することがかなり困難である
- *話のつじつまを合わせようとする
- *家族が同席していると、聞かれるたびに家族の方を向く

東日本大震災の被災地支援について

被災地支援について

このたびの東日本大震災の被害に遭われた皆様に対し、謹んでお見舞いを申し上げるとともに、犠牲になられた方々、ご遺族の皆様にも深くお悔やみを申し上げます。

今回の震災により被災した宮城県の女川町立病院へ、私たち看護師2名が3月18日から21日までの4日間、災害派遣の支援に行つて参りました内容についてご報告します。

女川町は宮城県の北部に位置し、牡蠣やホタテ、銀鮭の養殖が盛んな港町です。女川町立病院はそんな港町の中程にあり、海面からは約15メートルの高台に建っています。主要な家並みは、根こそぎ津波にさらわれてしまい、公式な数値は出ていませんが、人口1万人あたりのうち、約4割の方が依然行方不明になっているそうです。

私たちが着任した時は、災害発生から約1週間経過していました。それでも入院患者の80名ほどが病院の3〜4階で避難治療をしておりました。ちょうどその日に自家発電も稼働可能となりましたが、レントゲン機器や各種検査機器は1階にあつたため、すべての主要な機器は使用不能となっております。

また外来患者も日に300名近く来院されましたが、調剤薬局は勿論壊滅して無い状態でしたので、2〜3日分のお薬を渡すのが精一杯の状況でした。そして一番にお伝えしたかったのが、そこで働く地元スタッフの方々の献身的な姿でした。

災害当時、現地スタッフの方は、出勤してから自宅は被災され、帰る場所がありません。そんな中、ご自分の家族の安否さえ確認に行けない状況で働いていました。かける言葉もありませんでしたが、その姿に感動と悲しみと逞しさを垣間見た気がします。

いつ何時、自分が被災者になるのか分かりません。小さな支援も皆で支え合えば大きな支援になります。被災者の皆さま、希望を忘れないで下さい。

市立恵那病院 看護部・新床、西尾

当院の救急診療について

市立恵那病院では、恵那市のみならず、中津川市、瑞浪市からの救急車も受け入れており、その数は年々増加し、平成22年度は1100件を越えました。そのうち約半数の方が入院治療を受けています。また、当院に診療科のない脳神経外科、心臓血管外科、産婦人科などの救急患者さまは、当院にて応急処置を施した後に、医師が同乗し、近隣の公立病院や県立多治見病院、名古屋市内の病院まで救急搬送しています。

当院の救急診療の特色は、院内のチームワークおよび他施設との連携により、限られた医療資源を最大限に活用していることです。具体的には以下の各点が挙げられます。

(1) 当院には、地域の病院や診療所での診療経験を持ち、患者さまを全人的に診療することのできる総合医と、専門施設で研鑽を積み、学会の認定資格を持つ専門医が勤務しており、両者のチームワークによる診療を実施しています。これにより、さまざまな慢性疾患を持つ患者さまが救急受診されたときも、いたずらに各診療科を回されることなく、安心して診療を受けることができます。

(2) 当院で実施したCT、MRI画像等を、専用回線を通じて放射線科専門医（画像診断のプロ）に診断してもらい、当院での診療方針に反映させています。専門医によるダブルチェックを受けることで診断の漏れや見逃しを極力なくし、必要な治療を的確に受けることができます。

(3) 平成23年3月からは当院のヘリポートを利用したドクターヘリの運用や、かかりつけ医療情報の入ったメディカカード、テレビ電話を利用した救急専門医との直接連携などを順次開始しており、重症患者さまの速やかな搬送に役立てています。

おねがい

当院では平成23年4月から医師が3名減りました。また、このたびの震災支援のために当院からも医師看護師が派遣されており、当面は最小限の職員数での診療を余儀なくされています。限られた人数での診療のため、宿直後も通常診療に従事しているのが現状です。これにより平成23年4月より救急・予約診療以外の内科午後診療はお休みさせていただきます。

これらの状況をご斟酌いただき、症状の軽い患者さまは医師会の休日当番医を受診していただくか、可能であれば診療時間にご来院ください。



救急対策委員長 北村文近

新しい仲間が増えましたので、紹介します



市川令奈
【総務係】



井上祥子
【准看護師】



小出桃子
【看護師】



小栗志保
【看護師】



清原洋子
【看護部長】



市川英恵
【准看護師】



小木曾仁美
【看護師】



永吉敬子
【看護師】



森井志帆
【ケアスタッフ】



足立ひとみ
【看護師】



熊澤恵美
【看護師】

看護は「いのち」と共にある職業です。地域の皆様に信頼され、患者さまお一人おひとりの目線にたった看護のサービスに努めます。看護師個々の研修や教育に重点をおき、知識・技術の向上と看護の専門性を高め、安全・安心のある質の高い看護の提供を目指します。また、職種間のコミュニケーションを図り、地域に根ざした医療チームの一員として協働したいと思っています。

看護師募集のお知らせ

職 種：看護師（若干名）
休 日：日曜日、土曜日、祝日を含めて月7.5日以上
有給休暇：最大年間20日（採用月により変動します）
特別休暇：年末年始、リフレッシュ休暇、産前産後休暇、忌引等
※臨時職員（日勤勤務者）看護師も募集しています。
左記までご連絡下さい。
市立恵那病院 電話：0573-262121（担当 清原・渡部）



市立恵那病院には屋外ヘリポートが設置されています。

平成22年12月17日に市立恵那病院と恵那市消防本部が協力し、患者搬送・受入の訓練を実施し、平成23年2月9日から運用が開始されました。

救命率の向上や後遺症の軽減等を図るため、岐阜県は岐阜大学附属病院高次救命治療センターの協力のもと、救急医療用ヘリコプター（ドクターヘリ）による患者搬送が可能になりました。

ドクターヘリには、岐大附属病院の医師と看護師が同乗し、救急処置後に近隣の救急病院や岐大附属病院等へ搬送することになります。市立恵那病院から岐大附属病院まで患者を搬送する場合に必要な時間は約20分です。



患者受け入れ訓練



恵那病院ヘリポート着陸



市立恵那病院の救急車と冠雪の恵那山



新規導入された岐阜県ドクターヘリ【川崎重工(株)BK117C-2型】



ドクターヘリの内部

病院長 浅野雅嘉